

平成18年度

社会教育主事有資格教員の活動に関する調査研究

平成19年 3月

栃木県総合教育センター

宇都宮大学生涯学習教育研究センター

はじめに

近年、高齢社会、情報化社会の到来を背景に、生涯学習の重要性が叫ばれています。一方で、急激な社会変化に伴う人々の価値観の多様化や核家族化、地域の間人関係の希薄化等による、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。この度改正されました教育基本法では、第3条で生涯学習の理念が示され、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適正に生かすことのできる社会の実現を図ることが明示されました。また、第13条では、学校、家庭及び地域住民の相互連携協力の必要性がうたわれています。こうした状況をうけて、学校教育と社会教育の両方の知識を持ち合わせた社会教育主事有資格教員の活躍の重要性が増大してきました。平成10年9月に出されました生涯学習審議会答申では、社会教育主事有資格教員の学校と地域との連携における役割への期待が示されています。

栃木県においても、平成6年度から学社連携推進事業を実施し、各学校への生涯学習係の設置を働きかけると共に、地域の教育力を高め、子どもたちを豊かにはぐくみ、生涯学習社会の構築に向け、学校・家庭・地域社会が連携協力し、地域における教育活動を総合的に推進するために、社会教育主事有資格教員の1校1名配置を目指し、計画的養成を行っているところです。

現在、各学校や地域社会において様々な活動をしている社会教育主事有資格教員がいる一方で、様々な事情から必ずしも社会教育主事有資格教員であることが生かされていない等の問題点も指摘されています。このような現状に鑑み、学校や地域社会における社会教育主事有資格教員の活動状況について調査し、先進事例を紹介することによってその活動のさらなる充実・促進を図るために本書を作成しました。

各学校や地域におきまして、それぞれの実情に応じながら、社会教育主事有資格教員の活動の充実・促進のために本書をお役立ていただければ幸いです。

最後になりますが、今年度の調査研究を進めるにあたり、共同研究いただきました宇都宮大学生涯学習教育研究センター廣瀬隆人教授をはじめ、調査に御協力いただきました関係機関の方々に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙一

「社会教育主事有資格教員の活動に関する調査研究」目次

I	調査研究の概要	1
1	調査研究の目的	2
2	調査研究の方法等	2
	(1) 調査方法	
	(2) 調査対象	
	(3) 調査研究期間	
	(4) 調査内容	
	(5) 調査研究組織	
	(6) 報告書の作成等	
II	アンケート調査結果	5
III	資料分析結果	23
1	社会教育主事有資格教員の配置状況	24
2	校務分掌分析	27
IV	ヒアリング調査結果	29
	社会教育主事有資格教員の活動事例	
1	学校で生かす	30
	1－(1) 校務で生かす	
	1－(2) 地域の教育力を学校へ	
2	地域に生かす	36
	2－(1) 学校から地域へ	
	2－(2) 地域で活躍する	
3	先進事例に学ぶ	44
V	調査結果の分析と提言	45
1	調査結果の分析	46
2	考察	48
3	提言	49
VI	参考資料	51
	アンケート調査	52
	・調査票	
	・回答用紙	
	仙台市嘱託社会教育主事設置要綱	58